



堂 音 觀 塚 米 下

濫で村も西に移っていると思われるが、そのような伝承も聞いてない。

2、下米塚新田の開発 旧鶴沼川流域から離れた新田開発としては新しく、寛政二年（一七九〇）の出新田である。西部地域の元和以後の一連たる新田開発とは趣きを異にし上米塚にも出新田があるが、これは旧鶴沼川の河跡の河原開墾で、比較的後期のものであるが寛永三年（一六二〇）で、下米塚新田より遙かに古く開発されている。

3、川原町 二日町の渡し場は、中荒井村のもので、深川村を通過して、柳原町口か川原町に出たが、高田下町より古麻生・松野を経てこの川原町に出、対岸の幕の内から材木町の住吉神社わきに出る通路があった。東麻生・下米塚方面から川原町方面に行くのに専らこの川原町渡し場を用いていた。城下若松の商人などもよく通ったという。高田橋が新設されてからも、明治末年に農家に大八車が普及してからは、この川原町に出て、堤防を通過して、三本松へ出たという。ここに五軒ほどの渡し場の宿場のような並びが出来た。渡し場はなくなったが、付近が砂利採集の一拠点になったり、河原開墾もすすんで、三本松と並んで、渡し場でない、新田開発村ができて始めている。

4、二日町との境界壇 これは二日町の項に詳述したが、中荒井村より二日町南の渡し場に通じる旧道の北側